

実施計画事業評価調査

評価対象年度 30年度

事業コード	13200102	事業名称	介護予防普及啓発事業 (介護予防リフレッシュウォーキング事業) (生きがい温水プール浴事業) (介護予防ギフトボックス事業)	事業区分	主要な事業 政策宣言5・20
担当	福祉部	長寿支援課	問い合わせ先 258-1110(2199)	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	I 全てのの人にやさしい“生涯安心なまち” - 3 高齢者の暮らしの安心・生きがいづくり - ② 介護事業の充実
根拠法令等	介護保険法第115条の45

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない市民	受益者(最終的に受益を受ける人) 同左													
事業の概要	事業の目的(何のために) 介護予防のための個々人の取組を、日々の生活として定着させるとともに、介護予防に関する知識の普及及び啓発や、地域における自主的な介護予防に資する活動の育成及び支援を実施するもの。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) ①筋力の向上と老化の防止を図るため、運動教室等を実施する。 ②高齢者の生きがいづくりや健康づくり、社会参加を促進させるため、市内の企業・団体が行っている介護予防に資すると認められる教室や活動に体験参加してもらうことで、継続した介護予防のきっかけづくりを行う。													
30年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・介護予防リフレッシュウォーキング事業 ・生きがい温水プール浴事業 ・介護予防ギフトボックス事業	主な実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防リフレッシュウォーキング事業参加者</td> <td>30</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>生きがい温水プール浴事業参加者</td> <td>108</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>介護予防ギフトボックス事業参加者</td> <td>273</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		項目	実績	単位	介護予防リフレッシュウォーキング事業参加者	30	人	生きがい温水プール浴事業参加者	108	人	介護予防ギフトボックス事業参加者	273	人
項目	実績	単位													
介護予防リフレッシュウォーキング事業参加者	30	人													
生きがい温水プール浴事業参加者	108	人													
介護予防ギフトボックス事業参加者	273	人													
事業の成果 【定性的評価】	ウォーキングや温水プール浴事業については、基本チェックリストや主観的健康感の改善が見られる等、生活機能の維持・向上に一定の効果が見られた。ギフトボックス事業については、事業期間後も教室への参加や継続した運動を希望するアンケート結果が多く得られた。														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	介護予防ギフトボックス事業参加者			指標・目標値の説明(算定式)	定員の30% (平成28年度定員660人、平成29年度定員1,040人、平成30年度定員1,083人)				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度				
	実績値・達成状況	142	達成	280	未達成	273	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	介護保険事業特別会計 03款 02項 01目 002細目 01細々目 介護予防普及啓発事業										
年度	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度		
予算額(A)	5,806		7,429		8,203		8,474		8,474		
決算額(B)=(C)+(D)	3,827		3,295		3,571						
財源※	特定財源(C)	3,349		2,883		3,125		7,415			
	一般財源(D)	478		412		446		1,059			
概算人件費(E)	4,756		1,872		1,896		1,896		1,896		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.58	0.00	0.24	0.00	0.24	0.00	0.24	0.00	
総事業費[(A)又は(B)]+(E)	8,583		5,167		5,467		10,370		10,370		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	介護予防ギフトボックス事業については、更なる参加教室数・利用者数の充実の検討が必要。ウォーキングや温水プール浴事業については、実施内容が介護予防ギフトボックス事業と類似した教室もあることから、介護予防ギフトボックス事業を含めた事業の整理・見直しの検討が必要。	31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施 33年度 現状維持で実施

事業コード	13200102	事業名	介護予防普及啓発事業
部会名	第一部会	担当課	長寿支援課

【評価の観点及び判定】

・各観点について一定の基準に基づき判定しています。

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	3	2	3	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	4	2	2	2	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	2	2	2	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	3	3	3	3	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	3	3	2	2	2		
部会全体	3	2	2	2	2		

【評価結果(委員)】

- ・部会員からの評価(意見・アドバイス等)は、以下のとおりです。
- ・評価の観点ごとにコメントを並べて掲載しております。
- ・複数の部会員から同様のコメントを頂いた場合は、集約をせずに掲載しております。

No.	I. 評価の観点	II. 評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	介護予防の必要性は必然であり、実施可能な方法を選択しているが、達成手段については、参加人数の問題や地域の問題等、若干問題がある。
2	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的に関しては、概ね適正だと思うが、達成手段については、改善の余地がある。(例えば、高齢者用集合住宅やマンション組合との連携など)
3	①趣旨・目的及び達成手段	対象年齢を下げてもどうかというディスカッションがあったが、保健部との連携があってもよいのではないか。
4	②事業の効果	地域差がある点、また、継続希望の参加者数と実際に継続している参加者数で差がある点で問題があると思う。継続して教室に参加する参加者を増やすことに力を入れていく必要がある。
5	②事業の効果	このような事業はPRを行っても動員が実現できるかどうかは実施してみないとわからないため、定量的にも定性的にも評価が難しい。
6	②事業の効果	介護予防ギフトボックス事業の定員に対する参加人数及び参加率が低い点が気になる。
7	②事業の効果	介護予防ギフトボックス事業修了者のその後の活動にもつながっているため、事業の効果は出ていると思う。
8	③事業の効率化	委託と補助金方式は当面できる方策としては妥当だと思うが、地域活動の育成・支援という点については、もう少し具体策があつてよいのではないか。

No.	I. 評価の観点	II. 評価コメント
9	③事業の効率化	参加率が少ない教室が多い。
10	③事業の効率化	参加人数の数値にもっとこだわるべきだと思う。数値目標を考えることで事業改善の効果があらわれるのではないかと。
11	③事業の効率化	とても良い取り組みだと思う。参加者の満足度はどうなのか。
12	③事業の効率化	参加人数が少ないことが気になる。
13	④課題解決への取り組み	地域差への対応、また、参加者を増やし、地域活動として発展させるアイデアが必要であると思う。
14	④課題解決への取り組み	参加者が0人の教室が、10教室以上ある。参加者を増やす対策を取るべきである。
15	④課題解決への取り組み	PRを工夫すべきである。
16	④課題解決への取り組み	営利目的ではないことは理解できるが、一般的に考えれば、事業の見直しや代替策の検討は積極的に行うべきだと思う。
17	⑤今後の事業の方向性	高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定する際に適正に評価し、その評価に見合った次の方向性を出してもらいたい。65歳以下の介護予防対象者に対しては、長寿支援課での対応は難しいとのことであったが、担当課の垣根を越えて連携してほしい。
18	⑤今後の事業の方向性	参加希望者が増える教室を企画した上で、この事業をもっとPRするべきである。
19	⑤今後の事業の方向性	超高齢化社会を見据えた、先進的な取り組みを期待したい。
20	⑤今後の事業の方向性	今後、高齢化が進むため、内容の見直しを考えながら、事業を拡大していく方向でよいと思う。
20	⑤今後の事業の方向性	地域性もあると思うが、参加者の住まいの近隣に低費用で参加できる教室が多くあることが望ましい。
21	⑥事業全体を通じた総合的な評価	公共性は高いと思うが、いずれにしてもPR不足であると思う。「ギフトボックスって何？」という声もある。

【評価結果(第一部会)】

- ・部会員からの評価(意見・アドバイス等)を受け、部会としての評価結果を以下にまとめました。

評価コメント

- ・「趣旨・目的及び達成手段」については、介護予防の必要性は誰もが認めるところである。実施可能な方法を選択しているという点では、適正であるが、手段については、若干改善する必要がある。多くの人が参加できる仕組みにしていく必要がある。
- ・「事業の効果」については、参加者に地域差がある点への対応、また、継続希望の参加者数と実際に継続している参加者数では差があるため、継続して教室に参加する参加者を増やすことに努めてほしい。
- ・「事業の効率化」についても、参加者数の問題、また、実施している教室について、より多くの人が参加できる事業なのかという点について考えてほしい。参加人数の数値にもう少しこだわってはどうかという意見もあった。
- ・「課題解決への取り組み」については、地域差に対応し、参加者を増やす、さらに、地域活動として発展させるアイデアを出していく必要がある。
- ・「今後の事業の方向性」については、地域差、参加者数と併せて、計画が3年毎に策定されるということであるため、その際、適正に評価し、評価に沿ってギフトボックス以外の「介護予防リフレッシュウォーキング事業」及び「生きがい温水プール浴事業」との統合等を踏まえた方向性も検討してみてもどうか。